ろんくま移住計画

熊無地区

論田地区

ろんくま移住促進委員会 ｜ 本誌は、令和３年度に策定した「ろんくま移住者受入促進計画」のダイジェスト版です。ろんくまは今、どこにいて、どこへ向かおうとしているのか、ご紹介します。

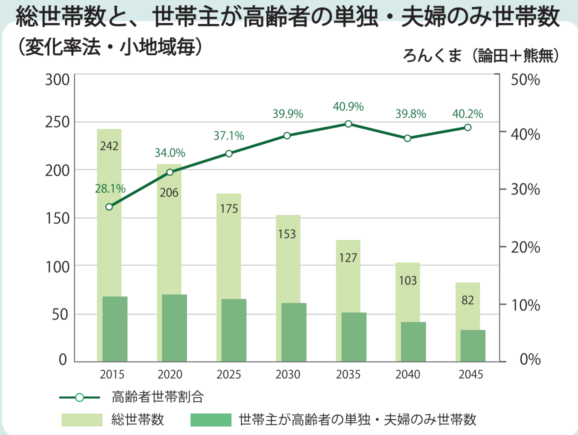
ろんくまの悩ましい未来予測

人口（変化率法・小地域毎）

若い人や女性、そしてこども達が少なくなっています。推計ではあと15～20年程で、村人は半減し、このままだと20年程で小学生はゼロになってしまうかもしれません。

▶ **子育て世代や若い世代をはじめとする移住、定住促進の取組みが必要です。**

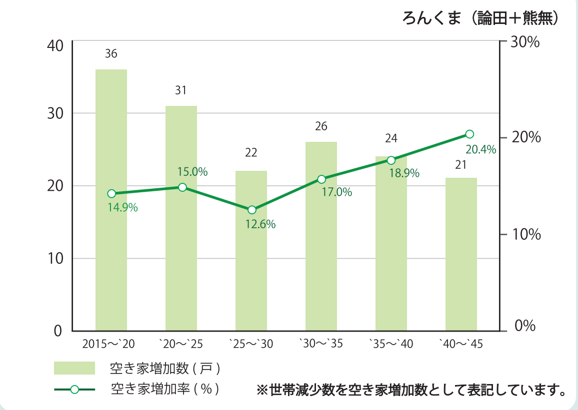
総世帯数と、世帯主が高齢者の単独・夫婦のみ世帯数（変化率法・小地域毎）



高齢者だけの世帯が増えていて、このままだと20年程で、約４割が高齢者世帯となります。若い世代の負担感が増え、ますます若い人が出て行ってしまうかもしれません。

▶ **地元に移住受入窓口を設け、移住のミスマッチを減らす取組みが必要です。**

空き家増加数・増加率（変化率法・小地域毎）



人が減って、空家が増え続けていきます。5年間毎に20軒以上の空家が出るかもしれません。また、移住希望者が増えつつありますが、このままでは事前に地元と移住者が顔合わせすることなく移住が決まってしまい、双方向の思いにミスマッチが生じる可能性があります。

▶ **自治会の体制や、行事等、今まで当たり前だったことの見直しが必要です。**

みんなで悩み、学び、考えました。

令和３年４月～令和４年１月にかけて、５回の実行委員会を開催しました。地元住民の他、富山県や氷見市、グリーンツーリズムとやま、氷見市IJU応援センター、富山大学等の関係機関と連携し、全国の先進的な取組事例を学びながら、10年後にどんな姿を目指すのか、どんな人達に来てほしいか、そのためにどんな取組みを行うかについて、みんなでとことん話し合いました。

10年後、こんな姿を目指します！

1. 若い世代、子育て世代が増え、こども達の笑い声が響く村に。
2. 農林業に取組む人、お店を開く人、芸術家、ものづくりをする人、テレワークする人、学生…多様な人々が集まり、交流する村に。
3. 人は減っても、安心して暮らしていくために必要な取組みを絞り、一人あたりの負担が少ない村に。

そのために、こんな取組みをします！

1 ろんくまの魅力を知ってもらう情報発信の取組み

HPや動画等での情報発信や、地元の小中一貫校と連携し、地元のこども達にも地域の魅力を伝えます。

2 自治会の体制や行事等、今まで当たり前だったことの見直し

「集落の教科書」づくりを通じた自治会体制や行事の見直しを行うとともに、地域の魅力を再発見します。

3 地域の内と外をつなぐ取組み

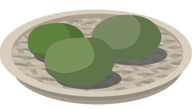
地元に移住受入に向けた窓口を設置します。また、移住希望者等が地元住民と交流し、地元住民が加工品づくりや憩いの場として集まることができる施設を整備する他、富山大学芸術文化学部提案のシェアハウス実現に向けた取組みなど、地域の内と外をつなぐ取組みを行います。

4 ろんくま魅力レベルアップの取組み

美しいろんくまの景観を維持し、魅力向上を図るほか、地域の食文化（農産品の６次産業化など）の磨き上げに取組みます。また、空家問題について気軽に話し合える場づくりを行います。

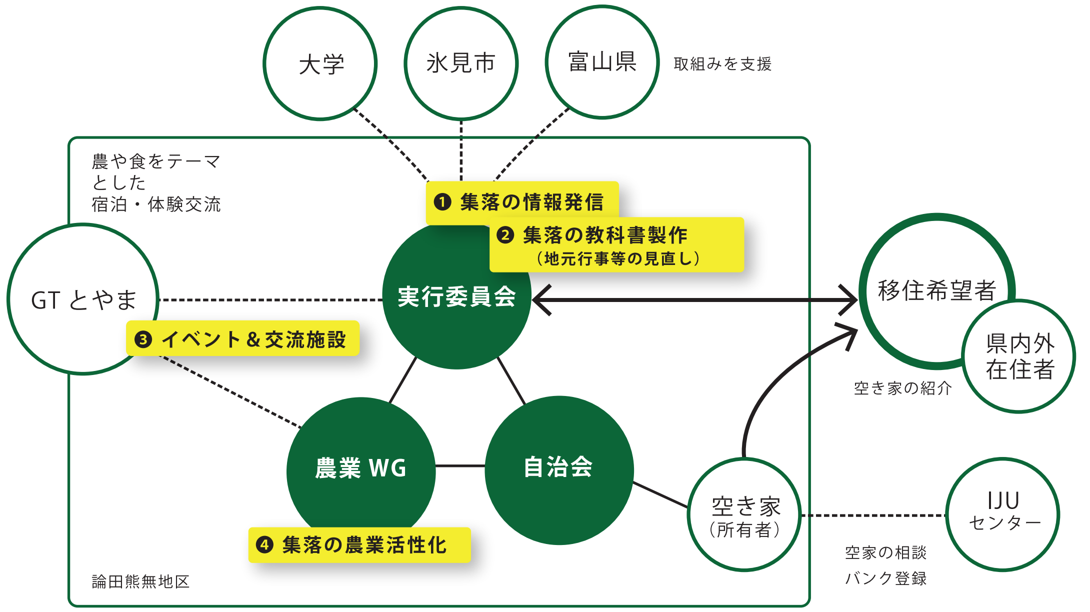
ろんくまの特産品がピンチ！？

論田の草餅



藤箕

ろんくまの特産品「論田の草餅（よもぎ餅）」と、国の重要無形民俗文化財「藤箕」がピンチです。加工所の老朽化や作り手の高齢化、担い手不足により、伝統技術の継承が危ぶまれています。

▶ **担い手確保に向けた取組みが必要です。**

こんな体制で取組みます！